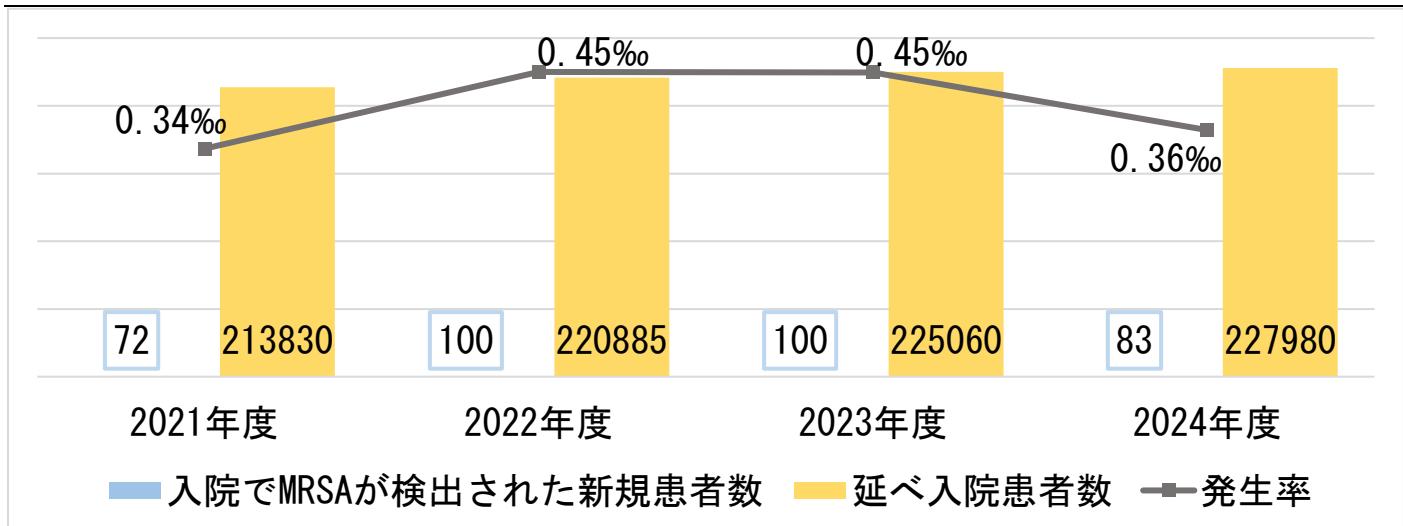


院内新規 MRSA 発生率



■定義

$$\frac{\text{入院でMRSAが検出された新規患者数}}{\text{延べ入院患者数}} \times 1000 = \text{院内新規MRSA発生率(‰)}$$

■指標の解説

MRSA のアウトブレイクを予防するためには、感染対策（標準予防策、環境汚染対策）を強化することが重要です。この指標は、感染対策活動が適正に実施されているかの評価の一助となります。

■改善活動

Plan

院内新規 MRSA 発生率が 0.4% を下回る

(活動計画)

- 院内の新規 MRSA および水平伝播の発生のモニタリングおよびフィードバック
- 手指衛生実施率のモニタリングおよびフィードバック

(下半期)

- 引き続き院内水平伝播数を監視し必要に応じて介入する。
- 11-12月開催の第2回手指衛生キャンペーンにて手指衛生実施の定着を図る。

(年度末)

- PDCA サイクルを活用しての取り組みは今年度で終了となる。来年度は引き続き手指衛生をはじめとした感染対策を徹底することで院内伝播防止につなげ、目標値を達成できるよう監視していく。

Action

Do

- 新規 MRSA および水平伝播の発生状況をモニタリングし、感染対策委員会にて院内へフィードバック。
- 今年度は MRSA のアウトブレイクは生じなかったため、介入実績はなし。
- 5-6月開催の第1回手指衛生キャンペーンにて、手指衛生実施の啓発および現場における手指衛生手順の確認・教育を実施した。
- NICU は MRSA 発生リスクが高いため、手指衛生の直接確認を定期的に実施している。

(上半期)

- 0.4%を上回る月もあった。分子には持ち込みの可能性が否定できない数も含むため、値を精査して院内水平伝播数を把握することが重要である。
- 手指衛生実施率は他院に比べ低値であり、介入後一時的に実施率が上昇するが数カ月で低下傾向に転じた。

(年度末)

- 下半期も 0.4%を上回る月もあったが、1か所の病棟に集積した水平伝播を疑う事例はなかった。
- 手指衛生実施率は昨年度に比べ6部署は上昇していたが、その他は横ばいが多く重症集中部門においては低下傾向であった。必要なタイミングに適切な量を使用して正しい方法で手指衛生ができるよう啓発する。

Check